

第31回全国川サミット in 守山・琵琶湖 (31st National River Summit in Moriyama・Biwako)

審議役 土屋 信行
水循環・まちづくり・防災グループ グループ長 清水 晃
水循環・まちづくり・防災グループ 次長 風間 聡

1. はじめに

全国川サミットは一級河川の流域にある全国の自治体が「全国川サミット連絡協議会」を組織し、川がもたらす恵みや人々との関わりを活かしながら、川と共存するまちづくりを共に進めることを目的としています。全国川サミット連絡協議会は、開催ごとに参加する市区町村が会員となります。最近では「かわまちづくり」や「小さな自然再生」などの取組を流域連携につなげる効果も出てきています。

2. 第31回全国川サミットのテーマ

琵琶湖は60種を超える固有種が生息し、近畿圏1450万人の生活や農業・産業に欠かすことには出来ない命の水源地です。1970年代淡水赤潮が発生したことをきっかけに漁協、環境団体、自治会、市民、国、県、市が連携して取り組んだ結果かつての豊かな環境を再生しました。このことから今回のテーマは「琵琶湖(赤野井湾)の再生～川と未来をつなぐ～」としました。

3. 参加自治体



秋田県横手市、山形県鮭川市、東京都江戸川区、岐阜県揖斐川市、愛知県岡崎市、兵庫県加古川市、愛媛県大洲市、地元滋賀県の彦根市、草津市、栗東市、野洲市、高島市、東近江市、守山市の14市区です。

4. プログラム

令和5年10月20日 全国川サミット連絡協議会
10月21日事例発表

- ①瀬田川洗堰と琵琶湖の環境②赤野井湾再生プロジェクトの取組③赤野井湾の魅力発見、パネルディスカッション「未来の川づくり、人と川をつなぐ」

5. 共同宣言

1970年代琵琶湖の汚濁負荷が増え淡水赤潮が発生したことをきっかけに「石けん運動」が展開されました。2015年には「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」が施行されました。守山市の赤野井湾でも、地元漁協や環境団体、自治会とともに琵琶湖を愛する市民が連携した結果、かつての豊かな環境が再生しつつあります。そこで未来の川づくりの在り方について参加者一同で以下の共同宣言を行いました。

- 先人が築いた、恵みをもたらす琵琶湖や川の歴史や文化を守り、次の世代に引き継いでいきます。
- グリーンインフラを生かした流域治水に取り組めます。
- 小さな自然再生などの環境学習を通して、琵琶湖や川を愛する心を育みます。
- 美しい景観と生物多様性の保全に努めます。
- 琵琶湖や川にかかわる人々の交流の輪を広げます。



小学生による赤野井湾再生の取組報告

6. 10月22日淡海の川づくりフォーラム

今回は全国川サミットと連携して滋賀県主催の取組としてフォーラムも開催されました。参加団体が日頃の取組を発表し、テーブル選考、ポスターセッションなどを通じて“きらり”と光る活動が表彰されました。



日頃の活動の様子が参加者に共有された